

「手掘り中山隧道」との出会いから・・・

山 岸 俊 男*

「中山隧道」については、2年前の2001年6月例会に「中山隧道の土木史物語」として発表の機会と会誌に掲載していただきまして、誠に有り難うございました。また、2002年秋の見学会は、帝国石油(株)南長岡鉱山岩野原基地のCO₂圧入現場と中山隧道の現場を実施していただき、参加された方々には一層理解を深めていただいたと思います。

隧道壁面には、ツルハシの跡が残っており、通り抜けた時に誰もが、当時の人々は何と凄い事を成し遂げたものだと驚嘆したかと思います。まだ現地を見ていない方は、一度訪ねて見ると必ずや何か、心を打つ事に会えるものと思います。

役場に見学日時を申込みますと、小松倉の隧道関係者が案内してくれますので、話を聞きながら質問して、地元の方々と気持ちを共有してみてください。



私が中山隧道を初めて知ったのは、昭和54年であります。当時、新潟県は県内の400近い集落が、冬期間になると孤立する状況下であり、その解消に力を注いでおりました。山古志村小松倉も孤立集落の一つでありました。昭和54年頃、宇賀地橋を渡って前沢川沿いに小松倉に入りましたが、冬期間は雪崩等の危険があるため交通不能となりました。

従って、道路改良ルートは、山越えしもなく盛んに山切り工事中でありましたが、集落までは、かなりの距離がありました。そこで、線形を多少低下させても土工量を減じて、何とか早く集落まで到達させねばと法線を検討したことを覚えています。そして、長岡土木事務所の道路係長吉越徳三郎氏と一緒に現地検討のため、地域の区長さんと役場の方々と現地を訪ね、その折り「雪中隧道」と「中山隧道」を案内してもらい、村人が全て手で掘ったと言うので、初めは信じられなかったのです。

雪中隧道は、山裾に沿って所々にズリ捨て兼明かり用の横穴があり、手掘りであると直に理解できたが、中山隧道は1kmにならんとする長さがあり、とても信じられなかった。そうしたら、地域の元村長松崎利得氏著の「中山隧道の記録」を渡されて、読んでみて驚いたのであります。それは、少し読みにくいのですが、行政が見放した事業を自分達だけで成し遂げる凄い事をやる人達だと思ったのを覚えています。

昭和54年頃、道路事業推進の打ち合わせに元道路建設課補佐佐藤克広氏と上京の折りに、目白の田中事務所にて、大和町後山の状況を集落の人達が書いた田中先生宛の大学ノート

*株式会社キタック

を渡されたのである。中には、過去に集落の子供2人が峠で凍死する事故があり、地元の小川泰夫氏が私財を投じて約50mの後山隧道を掘り、その後、県道大和焼野線となった路線であります。その路線の改良要望を綿々と切実に記しており、同時に子供達の寄宿舎生活の写真が添えてありました。

目頭に熱いものが、込み上げてくるのを押さえることができませんでした。多分、田中先生も同じ思いをしたに違いなく、当時、担当の特改係長であった私にノートが渡されたものと思います。

昭和57年、十日町土木事務所へ赴任して、十日町市願入が小松倉と同様の事情のもとに事業化していました。この集落は10世帯ほどで、その区長さん宅を訪ねた折りに、若奥さんが言うに、結婚する時、主人からあと2～3年すれば、冬も通れる様になると言われてお嫁に来たのに、子供が生まれ、間もなく小学校へ入るのに未だに道路改良が終らない。なんとかして欲しいと懇願され、道路課長として本当に申し訳なく、なんとしても早期に開通させねばと思ったことを覚えています。

新潟県内はじめ全国の中山間地域は、どこもこれと似た様な状況であると思います。それが、少しずつ解消されては来ていますが、まだまだこの様な地域が残っており、その様な地域への公共投資が、必要なことを広く訴えねばなりません。すると、一部の知識人からは、必ず経済性、効率性に劣るため、公共投資不要論が出てまいります。その時に、この映画が語ってくれています。

また、隧道掘削反対者が居る中で着手された事は、正に民主主義であり、それを教えてくれています。反対者は、中味こそ違い村のため、地域のために反対したのであります。

この地域エネルギーは、どこから生まれてくるのか。そのヒントは、地域に入って、地域の人達の生活スタイルやそこに昔から受け継がれている物事を知ることにあると思います。どうぞ興味を持たれた方は、現地を訪ねてみて下さい。

近年、公共事業が問われており、中でも道路やダム建設等がやり玉に上げられています。この様な時こそ、この映画が語り掛けて来る住民自身による公共事業が、行われていたことを都会の人達に知ってもらい、今の行政依存や経済性重視等を問い直すきっかけとなればと思っています。

映画化の経緯は、平成7年、当時の土木部長今岡亮司氏が、中山隧道に出会い真っ暗なため引き帰り、私の「中山隧道の記録」を読んで、同年、作家三宅雅子氏が講演会に来県した折りに紹介したところ感動し、平成8年に、取材のため現地を訪問しています。平成9年に三宅氏から今岡氏に映画化の提案があり、平成10年に両氏が、日本映画学校武重邦夫氏に相談してから少しずつ撮影等が動きだしました。そして平成15年、ついに映画が完成し4月28日山古志村にて試写会が行われました。

今後は、地方からの情報発信として、この映画に込められた小松倉のエネルギーを全国へ向けて発信するシステムを立ち上げ活動する予定となっています。